

よこはま都市消防



公益社団法人 横浜市防火防災協会
Yokohama Disaster Prevention



公益社団法人設立10周年記念

特別号

56号

1 | 4 | 7 | 10月

| 2022 | Autumn |



～会長あいさつ～

公益社団法人設立10周年を 迎えて



会長 鈴木 正光

横浜市防火防災協会は、本年4月に公益社団法人設立10周年を迎えることができました。これもひとえに、設立にあたりご尽力いただいた役員各位、設立の趣旨にご賛同いただいた会員の皆様、そして設立前後からご指導いただいた横浜市消防局、神奈川県はじめ関係行政当局や関係団体など、多くの方々のご支援の賜物と感謝を申し上げます。

当協会は、昭和25年に発足した横浜市火災予防研究会をルーツとして、昭和56年に社団法人横浜市火災予防協会として設立、平成24年4月1日公益社団法人に移行いたしました。公益社団法人設立あたっては、組織の体制、経営の方針、事業の内容など多くの課題を解決し、中には課題を抱えながらスタートし、少なからずの苦難を乗り越え今日に至っております。

当協会の目的は、市民や企業の皆様の自主的な防火防災意識を高め、横浜市の安全と安心の実現に寄与するものでございます。近年におきましては、火災や救急対応を始め、地震や風水害など各種災害の予防や被害の拡大防止への取り組みの必要性は、増々高まっている状況です。さらに、コロナ禍など新たな困難の中にあっても協会としての活動を継続し、その使命を果たしていきたいと考えております。

結びに、当協会の益々の発展と関係各位のご多幸を祈念しますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。



目次	
会長あいさつ	
公益社団法人設立10周年を迎えて	2
消防局長祝辞	
公益社団法人設立10周年をお祝いして	
横浜市防火防災協会沿革	3
前会長インタビュー	4～5
10周年に思いを寄せて	
元事務局長寄稿	6～7
初代事務局長としての思い	
10周年祝賀会より	8
都市消防執筆者・座談会	9～12
アルバム記録写真	
● 総会・理事会	13
● 防災施設視察研修会	14～15
● 防災セミナー	16
● 防災講演会	17
● 広報誌の表紙	18
● ポスター	19
表彰	20～21
防災功労者表彰ほか	
消防車は語る	22～23
全10回+αの乗り物が集合	
わたしのベストショット ～総集編～	24～25
理事の方々	26
10年間の変遷	
事務所訪問	27
ホームページのリニューアルについて	27
職員の写真	28
事務局職員名簿	29
10年間の変遷	

～消防局長祝辞～

公益社団法人設立10周年を お祝いして

横浜市消防局長 **平中 隆**



公益社団法人横浜市防火防災協会が設立10周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

国において公益法人改革に向けた関連法案の審議が行われていた平成18年、19年当時、私は消防局予防課で予防係長を務めており、その関係で消防局の外郭団体であった、当団体の前身である社団法人横浜市火災予防協会と財団法人横浜市防災指導協会について、関連法案成立後の協会運営の検討に関わらせていただきました。また、その前の救急課では、応急手当講習の委託事務にも携わっておりました。

こうしたことから、二つの協会が合併を経て平成24年に新たに公益社団法人として誕生して以来、本協会の運営・発展には人一倍、強い関心をもっておりました。

この10年、社会の変動は目まぐるしく、特にこの数年は新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、協会事業の運営には数々の困難があったものと存じますが、鈴木会長をはじめ、協会役員の皆様、会員の皆様方の多大なるお力添えにより、横浜市防火防災協会が「安全・安心都市ヨコハマの実現」という大きな目標に向かって力強く、着実に歩み続けてこられましたことに、敬意と感謝を申し上げます。

結びに、貴協会の今後益々の御発展と、会員の皆様方の御繁栄と御健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

沿革

1950 (昭和25)年 9月1日	1972 (昭和47)年 6月1日	1975 (昭和50)年 4月1日	1978 (昭和53)年 10月28日	1981 (昭和56)年 6月23日	2009 (平成21)年 4月1日	2012 (平成24)年 4月1日	2022 (令和4)年 4月1日
----------------------	----------------------	----------------------	------------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	---------------------

横浜市火災予防研究会

横浜市内の防火管理者・危険物取扱者を種々事業所を有志会員として発足

横浜市火災予防協会

団体名称改称

横浜市火災予防協会

特別事業部

「特別事業部」設立（消防法等に基づく講習業務等を開始）

横浜市火災予防協会

特別事業部

移管

社団法人 横浜市火災予防協会

法人格取得 団体名称改称

社団法人 横浜市火災予防協会

吸収合併

事務所を現所在地へ移転

公益社団法人 横浜市防火防災協会

公益法人の認定取得 団体名称改称

公益社団法人
設立10周年

財団法人 横浜市防災指導協会

「特別事業部」の事業を新たに設立された「財団法人横浜市防災指導協会」に移管

～前会長インタビュー～

「10周年に思いを寄せて」



前会長 石井 忠

協会の成り立ちや会長になられた経緯を教えてください

横浜市火災予防協会と防災指導協会の合併により、ステータスのある団体ができないか、その目標に向けて話が進められた。本来角田会長（角田和弘氏）が代表になる予定だった。角田さんは市議員経験や消防局とのつながりもあり、会長にふさわしい方だった。私も副会長として何でも一緒にやっていたので、角田さんが病気になり、ご息女の角田宏子氏（現在理事）が来られて、父の意向ということで「石井副会長に合併後の最初の会長として是非引き受けてもらいたい」との話をいただいた。理事会の決議を経て、それでお引き受けすることになった。

現在の防火防災協会の事務所（南区別所）で2つの団体の合併について議論された。2つの団体の良いところ、指導協会は財政面の豊かさ、火災予防協会は事務所と多数の会員と職員がいて組織力があり、それを結び付けて合併を進め、今の基礎を作ることができました。

合併の際にはどのようなご苦労があったのでしょうか

合併に向けて委員会が開かれ、業務内容、組織、団体の名称など様々な議論が行われた。

合併が決まった後も秋山専務理事は苦労されたと思う。財務基盤となっていた消防設備の点検業務が入札方法の変更によりその事業収入が見込めなくなり、職員の組織力がありながら事業展開が壁に当たることになってしまった。

また、小泉内閣時代に公益法人制度改革により各法人は5年以内に必要な申請をして公益法人となるか否かを定めることになり、当協会も審査を受けるには財政基盤を整える必要があり、認可に向けて組織体制を見直し、必要な手続きを朝日税理士法人に指導していただきながら進めていった。平成24年4月に「公益社団法人」の認定を経て、それから早いもので10年が経過しました。

協会の名称については

両団体の代表委員が協会の事務所（南区別所）に集まり、その時私は指導協会の会長、火災予防協会の副会長でした。委員長として委員会を



画：渡邊 雄二

たびたび開催した。委員の方たちの意見をまとめて、新たな協会の名称は火災だけでなく幅広く災害を網羅する「防火防災協会」に、これ以外ないと思える良い名称として決まりました。

公益社団設立後について

公益社団法人設立以降の事務局長の安藤さんは、協会のステータスを少しでも上げようと努力された。財務状況が苦しくて職員の人にも大変な思いをしてもらうなど安藤さんは苦勞をされたことと思う。

次の武下事務局長は、やはり財務状況が苦しかった中でも消防局との関係や消防署とのつながりに力を入れられて関係性が強くなったと思う。

さらに消防局長経験の坂野事務局長（現在専務理事）がこられて、人材や組織力も強化され、消防局や各消防署との連携も進み、事業の拡大や広報誌の充実も図られるようになった。

合併以前も含めて協会の活動で思い出に残ることは

その合併前の話ですが、視察研修会は各区予防協会から3～5名の参加枠があり、宿泊を

兼ねて、各区の会長や消防署の予防課長さんなどが参加、バス2台で出かけたりした。盛大でしたし研修はもちろん、交流が楽しみでした。

ある時、施設見学で完成したばかりの横浜ランドマークタワーの屋上を見学させていただいた際に、周りの景色に感激していたら神奈川県方面で黒煙が見え、案内していた消防職員がすぐに119番通報をされていたことがありました。工場の火災だったらしくみるみるうちに黒煙が大きく上がっていたことを覚えています。ランドマークタワーの高さと市内を広く監視できることに改めて気づかされました。

最近の防災施設視察研修も限られた時間の中で充実した内容になっていると思います。

協会の今後について

公益法人としての役割は益々大きくなっていくと思いますが、横浜市消防局、関係団体との関係を強固にして、これからも社会の安全と会員事業所の皆さんの安全と安心に向けて、組織の継続性を守りつつ、真摯に取り組んでいただければと思います。

～元事務局長寄稿～

「初代事務局長としての思い」



元常任理事兼事務局長 **安藤 行雄**

公益社団法人横浜市防火防災協会 10 周年おめでとうございます。そして初代事務局長としての思いを記す機会を与えていただき感謝しております。いろいろありましたが、2つのことを記したいと思います。

1. とにもかくにも財務改善!!

予算規模約 1 億 3,000 万円の社団法人横浜市火災予防協会は平成 23 年度決算で約 2,800 万円の赤字、そして旧（財）横浜市防災指導協会から引継いできた正味財産期末残高も約 2,800 万円減って、3,070 万円ほど。これが、平成 24 年 4 月 1 日付で公益社団法人に移行した横浜市防火防災協会（以下「協会」という）初代事務局長として採用された私の目の前にある現実でした。

そもそも公益法人として存続してゆくこと自体にクエスチョンマークがつくような厳しい状況でした。

以前から事務局を担当された方々もそれなりに努力されたのですが、この結果でした。

この原因を突き止める時間的余裕はありませんでした。収入は事実上確定しているので支出をとにかく減らす必要があります。幸いにして、私は消防局予防部で査察課長、予防課長、保土

ヶ谷消防署で予防課長を経験していたので、（このおかげで石井会長とは一緒に仕事をすることがあったことは幸運でした）、自ら動いて経費の削減を職員の皆さんに示すことにしました。いくつかの例をあげると・・・

平成 24 年 7 月 18 日（水）開催の防災セミナーで講師を務め講師謝金を削減しました。（セミナーの内容は「よこはま都市消防 2012No.15 平成 24 年 10 月 15 日」に載っています）同時に協会職員の多くは豊かな知識と経験をもつ消防 OB であることに着目し、従来、外部の講師にお願いしていた防災管理講習、防火管理講習、自衛消防業務講習等の講義を協会職員で、すなわち自前で行うことを目指しました（講師謝金の削減）。事務局長自らが講義を率先して実践し協会職員の皆さんが講師をしやすい雰囲気を作るようにしました。しかし、個々の職員の努力による個別の手直しには限界があります。組織として正式に意志決定し、実行していく必要があります。そこで平成 24 年 9 月に「自立運営強化 3 ケ年計画大綱」を策定し、職員の横断的な能力の発揮（色々な仕事をやってもらうこと）や講師の内製化（自前で講義をするということ）、職員採用形態の多様化（定年後の再雇用臨時雇用、非常勤講師の活用）や給与の適正化（当時



画：渡邊 雄二

の横浜市の要綱に沿ったものとする)等による人材の活用、経費の見直し、そして会員増を目指す等にチャレンジして、資金収支赤字体質からの脱却を図ることにしました。

結論から言えば、平成 24 年度決算は 650 万円の赤字、平成 25 年度決算は 660 万円ほどの黒字、平成 26 年度決算は 740 万円ほどの黒字、平成 27 年度決算は 300 万円ほどの黒字となり、ともかく赤字体質からの脱却は達成されました。

良いこと尽くめのように見えますが、経費削減の主要部分は、人件費の削減であり、3ヶ年計画でチャレンジしようとしたことに関しては、講師の内製化、給与の適正化、職員採用形態の多様化、規程類の制定改廃、救命講習実技カリキュラムの改善、ホームページの全面リニューアル、防災視察研修の日帰り実施などを除き、先送りしたものが少なからずありました。

(追記)

次の事務局を引継いだ武下さん、有賀さんチームが本誌のカラー化など、次々と改善を進め、現在の坂野さん、瀧上さんチームまで継続して業務改善が続けられている姿を見ると、公益社団法人横浜市防火防災協会の未来は明るいと思うものです。

2. ただただ感謝!!

組織の仕事、とくに業務改善は一人が力んでもどうなるものでもありません。多くの皆様が協力・応援してくれたから業務改善が出来たのです。そのことへの感謝です。

- (1) 当協会の財務状況については企業経営者として相当に厳しい見解を持っていたと思いますが、石井会長を始め各副会長、理事の皆様が事務局を信頼し応援してくれたこと。ただただ感謝です。
- (2) 危機感を共有し業務改善に意欲と実行力を持った協会職員が少なからずいてくれて、更に、この人達を応援してくれる職員が多くいてくれたこと。これによりよい方向、よい方向へと回転してゆきました。職員の皆さんにただただ感謝です。特に、市村さん、都丸さん、信田さん、神保さん、滝尻さん、安田さん、小山さん、中野さん、田子さんに謝意を表します。
- (3) 横浜市の防火防災の向上にあたっては、当協会と消防局が各々の立場を踏まえながら相互に協調していく必要があります。発足したばかりの当協会をその視点から対応してくれた消防局の皆さんにただただ感謝です。特に当時の予防部長の岡田さんに謝意を表します。

公益社団法人横浜市防火防災協会設立10周年記念式典・祝賀会

令和4年6月23日(木)、崎陽軒本店にてご来賓、会員併せて
108人のご出席をいただき開催いたしました。



会場風景



会長あいさつ



消防局長祝辞



元消防局長祝辞



表彰



表彰



ピアノ演奏



祝宴

公益社団法人設立10周年 よこはま都市消防 執筆者座談会



(シ)さん
妄言多謝
No. 36 ~ 20回



(K)さん
新約消防白書
No. 47 ~ 9回



ジャムさん
YOKOHAMA
路地裏日記
No. 37 ~ 19回



岡田さん
人的エラーからの
脱却
No. 46,49,50,51,53,54
~ 6回



淵上編集長
本年度より
編集長に
当協会の
常任理事兼事務局長

今回は、よこはま都市消防の各コーナー、「妄言多謝」の(シ)さん、「新約消防白書」の(K)さん、「YOKOHAMA 路地裏日記」のジャムさん、そして特別寄稿「人的エラーからの脱却」の岡田さんにお集まりいただき、淵上新編集長の司会により、よこはま都市消防への思いについて、座談会形式でお話を伺いました。

記録：有賀

【自己紹介・近況について】

淵上編集長 皆さん、自己紹介、近況をお願いします。

(シ) 私はだんだん幽霊に近くなってきた。物事に興味を持たなくなってきた。自分が考えていることに集中して自分の中へ中へと沈む思いが多くなる。簡単に言うと、読んで、書いて、音楽を聴いてそのくらいです。自分の部屋で全部済んでしまう。

岡田 年とともに感性が磨かれてきているような

(シ) そうやって自分の感性を磨いていかないと逆にダメなんです。放っておくと感性も体力も落ちるからそうやって自分の中に入ってくる。

(K) 最近まで私には趣味といえるものがなく探していた。海の近くに住んでいるので、最近、シーグラスを拾いに行くのが好きになって、それを拾い集めて作品を作るみたいなのが趣味になっている。ビーチを歩くのがすごく楽しい。

ジャム 私は絵が好きなので、汐留美術館のキース・ヴァン・ドンゲン展に行ってきました。40年ぶりの来日、とてもよかったです。それとル・コルビュジェの造った、国立西洋美術館、それも新装になっていってきました。

それと漢詩の本を読み始めました。長い歴史がありますが過去の作者と壮大な時間の流れを感じながら漢詩を読んでいるんです。



岡田 仲間と先日も甲府にある「おいしい学校」という学校を宿泊施設にしているところへ行きました。畑の真ん中に学校があってそこに宿泊できるのがすごくいいんです。

そこに行くため富士川に向かう途中で鮎を食した後、「中勤助文学記念館」があってその館長さんと話ができて、有名な著書「銀の匙」など趣味が合って盛り上がりました。

【それぞれの文の源泉は】

淵上編集長 お話を伺っていると、皆さんは多くのものに関心を持っていらっしゃるんですね。その源泉は何なのか、多趣味、興味を持つ、アンテナとかバイタリティーはご自身の意識の中にはどのような位置づけになっているのでしょうか。

ジャム 自分が思うのは、自分自身非常に不完全で欠損している部分があって、「何か足りないもの」を埋めたいがためにいろんなものに手を出して、埋めてはみてもやっぱり違うなあ、ということを繰り返しているんじゃないかと思います。何かピースが合わないからあれこれやって手を広げている。

(L) それは全く共感します。ジャムさんの言う「何か足りないもの」というのは私たちだけではなくいろんな人が言っているんです。もの書く人も芸術家も大概そうなんです。自分の足りないものを埋め続けているんです。

(K) これは自己肯定感の話ですね、私はどちらかというとな否定型なんです。否定しているものですから自己肯定感のある人を見るとすごいスケールが大きく感じる。

高校時代は自己否定ばかりでした。そんな中で出会ったのが白樺派でした。特に武者小路実篤の自己肯定感には救われました。自己肯定したいがために自分はもがいているのではないかと思った。

淵上編集長 よこはま都市消防についてですが、文章を作るうえでどのようにされていますか。

(K) 基本的には自己否定だけれど本当は自己肯定を求めている。文章の中でも「こうでしょ」「こうでしょ」と求めている気持。

(L) うまいこと言いますね。酒も飲まずに(笑)。

(K) たとえば都市消防の編集部に救われたりする。

(L) 肯定側が否定する側を助けている。自己肯定できる人は日常の中から見えるものにも肯定できるように広報誌の編集にはそういった肯定力が大切なのかなとも思う。

ジャム だから自己肯定感のある人は他人を幸せにするのではないか。

(L) 前編集長有賀さんには趣味の多さからもわかるが自己肯定できないはずはない。

(K) 前号の趣味の紹介のところ、あのページは肯定感がありすぎと思った。

【執筆されている都市消防の各コーナーについて】

淵上編集長 岡田さんの人的エラーからの脱却についてはどのようなことを読者に伝えようとお考えになったのでしょうか。

岡田 一つには橋本邦衛さんという人間工学の基礎を作った学者さんの、人間を五つのフェーズに分ける、そのことが一つの発見だったと思う。人間というものは完全なものではない、その時その時で変わっていく、それが橋本理論。それを参考に理論化したいという思いが強かった。西消防署の予防課長をやっていたころからのことですから、何十年か読みつないできて結構理論も変遷し、積み重ねなので、補填し、補填しそれでやっと形になった。



(L) 岡田さんの文は読んでいてるみがない。しなやか。非常にまじめな人が書いているように読める。これは読み物としてこれまで出来てきた機械と、今の人間との接点を、そう失敗する人間に温かいが、機械は放っておけば技術が進歩するわけで、そこに失敗する人間がいて、その折合いをどうしたらはつきりわかるんだろうと真正面から突っ込んでいます。

岡田 自分の中では手に余っているところかもしれない。30回くらい推敲している。読み方としてはさっさと読んでほしい。

(L) ほころびがないのは推敲のおかげですね。読んでいてなめらかでしょ。

淵上編集長 ジャムさんの路地裏日記はざっくばらんな情景が浮かぶのですが、意識されていますか。

ジャム そうですね、読者の側に立って読んだらどうか、そういう視点は大切。

淵上編集長 そこが謙虚でとげとげしさのない読みやすい文になっていることなのでしょうね。

(L) さっき言った、自分が不完全な側にいると、どうみられるかを意識する。路地裏日記の場合、写真と土地の名前など「こうすれば見えてくるんじゃないか」というように解釈したい。それはジャムさんにしか書けない。横浜の人が読む意味がすごくある。

(K) 路地裏日記は読むと一緒に歩いている感じがする。「どうするんだオレ」の立場、それはすごいと思う。To be or not to be なんです。通常は「どうしよう」であり主語はない。その場合は迷っているだけ、しかしこの文にはオレが出てくる。「どうするんだオレ」はすることしか考えていない。これはぎりぎり自分に対峙していることです。読み手にも突きつけられている。自分にも「どうしよう」ではなく「どうするんだオレ」が出てくる。

(L) それで私の場合、何回も推敲してできていく過程、この助詞はこれでいいか？たどり着くまでは大変なのですが、楽しい作業なんです。秘密ですけど。(笑)

(K) 快感がないと続かない。

【過去に発行されていた横浜市消防局の機関誌「横浜消防」について】

淵上編集長 (L)さんは、かつて消防局の「横浜消防」の編集をされていましたがその時の話を教えてください。

(L) 守秘義務があるので話せる範囲でとなりますが、相方とこの本をどうやって作るか、職員の中にはほとんど読まない人もいます。3500人の職員が読む、誰かが読む、誰かが繋がってすべてのページを読む。読まなそうなところの手を抜くなどということはあってはならない暴挙です。相方は写真と編集が得意だったので私は文章を担当しました。冊子の編成に必要な記事を集める場合だが、「原稿ないですか？」では集まらない。「あなたの文章が欲しい」と言わないといけない。その結果として時間はかかりましたが文章が届くようになりました。それで相当数の原稿を読むことになったが、原稿を読むと98%その人がどんな人かわかるようになってきました。いざとなったら自分たちで書けばいいという覚悟もできていた。当時、編集長は予防課長だったので、「ここを変えてくれ」と言われたら「私たちを変えてくれ」というつもりで打ち込みました。それだけの自負はあった。消防局長にも呼ばれてどういうつもりで作っているのか問われた時は「組織と局の本なので品格を落としてはいけない」という思いを伝えました。



【「よこはま都市消防」について】

洲上編集長 「よこはま都市消防」は5年前とは変わったと思いますが、前編集長の話では「消防局の機関誌『横浜消防』の復活はみんなの願い、当協会の広報誌をそこに向けて見直すことはチャンス」と思ったそうです。

(し) 執筆者をよく捕まえて記事を書いてもらったことはよかったです。横浜消防の歴史の吉田さん、減災新聞の渡辺さんもよく横浜のこと、消防のことをほじくってくれて敬意を払いたいと思います。渡辺さんは新聞記者だから毎回素晴らしいが、最近連載している小野さんの「アシスト」も事実をしっかり調べており、毎回土俵を変えていて書き方が柔軟で分かりやすいです。

岡田 書くということ、載せるということは命懸けで、私の今の勤務先のトップが安全に関しては専門家とも言え、読まれているので恥ずかしくなりません。

(し) そういう人にも対応できる原稿にしなければならない。

【今後の「よこはま都市消防」について】

洲上編集長 今後の「よこはま都市消防」はどうですか。

(し) 以前、ある自動車会社の社内報を作っている方の話を聞く機会があったのですが、「社内報を作る意味は？」と直球で聞いたところ、ためらいもなくその方は「人を作るんです」と言った「自動車を作ってもらいたいのではなく、人をちゃんと作ってさえいればどこの会社でもいいクルマは作れます。」それは「よこはま都市消防」もそうだろうなと思いたい。今この広報誌の面白いのは、渡辺さん、吉田さん、小野さん、岡田さん、皆さんが事故や災害の話をお書きになっているようで実は「人」が中心なのです。それは変えないほうがいい。概念を賛美しないで、人が生きる、人が人を救おうとすべきではないか。その原点を変えるべきではない。素晴らしい著作者を掌握している。意図を問う人はいない。

小野さんの「アシスト」は統計からその人をどう守るかが主題。(K)さんの「白書」は内開きか外開きかの話があったり、バベルの塔の話もそうだったが、絵が浮かぶ、人が浮かぶ、その「人」を気にしているからあのような文が生まれる。組織や法律を相手にしていない。

ジャム 結論が出たようですね。「人を作る」でいいと思う。

(し) 吉田さんはよく調べてやってくれていますね、横浜消防の創成期の話。

ジャム お人柄が出てる。まじめで几帳面でいい人だということがすぐ見える。

(し) 渡辺さんの文章もいい文章ですね。佐藤さんの消防車の話、感電しちゃったとか可笑しいところもありますがふんわりとした雰囲気にも包まれ奥の深さもある。

ジャム 皆さん熱いですよね、ハートがある。そういう著者を今後も発掘していくことが大事だと思います。

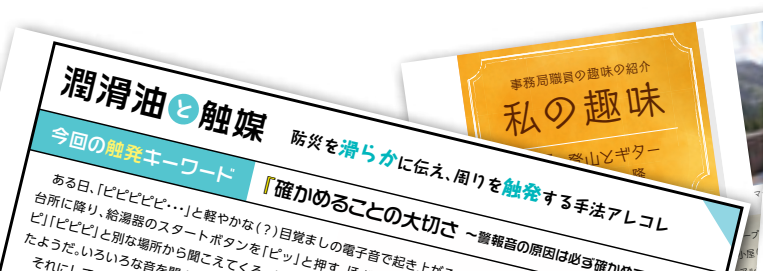
(し) 我々だけでは逆立ちしても無理なのでそういう人を見つけてほしいです。忘れてならないのは写真の近藤美樹さんね。特集を組んでほしい。ベストショットを見開きにまとめたり、それで消防でやっていることが分かる。それと「潤滑油と触媒」硬軟取り混ぜというか玉石混合というか、もうちょっと専門家にしか書けない内容にしたほうがいいのではないかと。

洲上編集長 あのコーナーのコンセプトは「読者の中の防火管理者の方が職場の朝礼で防災についてのコメントをする際のヒントになれば」と、そのネタを取り入れることで始まったようです。

(し) ラストのお酒の紹介もいい。買おうと思ってしまう。

洲上編集長 皆さんのお話、とても参考になりました。「人を作る」という結論が出て大変勉強になりました。うまくまとまらず申し訳ありません。

(し) 経験的には座談会はまとまらないものです。(笑)



総会

平成30年度 定時総会 場所: 崎陽軒 本店



防災功労者表彰



令和元年度 定時総会

場所: 崎陽軒 本店



令和2年度 定時総会

場所: 崎陽軒 本店



理事会

平成27年度 理事会

場所: ホテル横浜ガーデン



平成29年度 理事会

日時: 平成29年6月1日 場所: 崎陽軒 本店



防災施設視察研修会

平成24年度

[実施場所] (独)土木研究所

[視察内容] 舗装 / 橋のメンテナンス / 土木技術に関する研究施設、橋の耐震対策に関する実験施設を見学



舗装走行実験場



橋梁撤去部材保管施設

平成25年度

[実施場所] (独)森林総合研究所

[視察内容] 木材の耐震・耐火の実験設備の視察、木造モデル住宅の見学、防火・防災部門の実験設備、研究施設等を視察



平成26年度

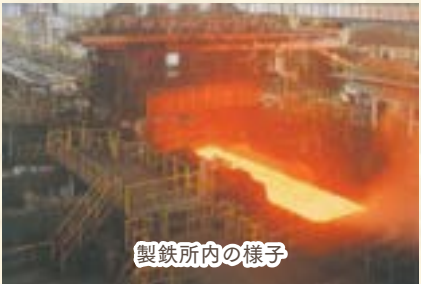
[実施場所] JFEスチール株式会社、東日本製鉄所(京浜地区)

[視察内容] 高炉、転炉などの製鉄の仕組み・製品としての厚板と、その製造工程での熱延作業

使用済プラスチックの高炉原料化など、リサイクルへの取り組み / 製鉄所という広大な地域及び事業所での防火防災に係る取り組み



視察研修会の様子



製鉄所内の様子

平成27年度

[実施場所] 国会衆議院、東京臨海広域防災公園 そなエリア東京

[視察内容] 国会衆議院内及び衆議院本会議場等の見学 / そなエリア東京でのタブレット端末を使用した防災体験と防災学習



国会衆議院見学



そなエリア東京での防災体験学習

平成28年度

【実施場所】 日本科学未来館、中央防波堤ゴミ最終処分場

【視察内容】 日本科学未来館：「世界をさぐる」、「未来をさぐる」、「地球とつながる」を見学 / 中央防波堤ゴミ最終処分場：廃棄物処理施設及び埋め立て処分場見学 / 東京のゴミ処理の流れ、ゴミの資源化や環境保全の取組などについて学習



日本科学未来館



中央防波堤ゴミ最終処分場



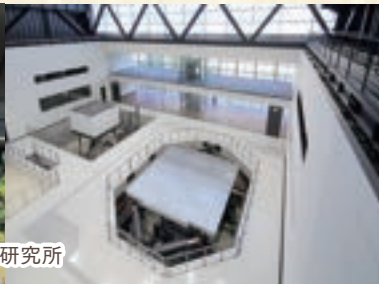
平成29年度

【実施場所】 清水建設技術研究所、崎陽軒横浜工場

【視察内容】 清水建設技術研究所：スパークレコンの災害に対する安全・安心を迫る技術及び設備の見学 / 崎陽軒横浜工場：「駅弁の歴史」及び「シウマイ弁当のみつ」の学習、大量及び少量生産に対応した「シウマイの製造工程」及び「シウマイ弁当の製造ライン」見学



清水建設技術研究所



崎陽軒横浜工場

平成30年度

【実施場所】 JAXA相模原キャンパス、川越(自由散歩)

【視察内容】 JAXA相模原キャンパス：宇宙の謎を解明する学術研究の拠点。メインキャンパス、宇宙教育センター、実験施設及び先端科学実験棟などを見学 / 川越(自由散歩)：江戸時代の蔵造り(類焼を防ぐための巧妙な耐火建築)の建物から当時の防災を学びながら散策



JAXA相模原キャンパス

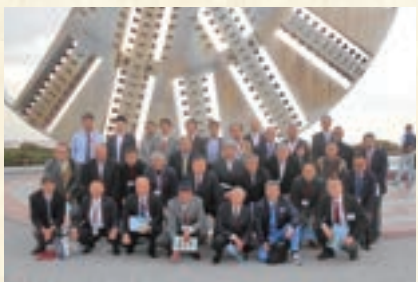


川越(自由散歩)

令和元年度

【実施場所】 東京湾横断道路防災施設

【視察内容】 東京湾横断道路のうち川崎浮島～海ほたる間の地下トンネル部分を構成する施設の防災設備を見学しました。



防災セミナー

平成26年度

[内容] 東日本大震災から3年！
「津波の高さ・速さと生活の中の放射線を再び考える」
[講師] 公益社団法人横浜市防火防災協会
常任理事 安藤 行雄



平成27年度

[演題] 「自衛消防隊に期待するもの」
[講師] 一般財団法人 日本消防設備安全センター
企画研究部 審議役 岡田 康裕 氏



平成28年度

[演題] 「火山の活動・防災について」
[講師] 横浜地方気象台 火山防災官 瀧山 弘明 氏



平成29年度

[演題] 「気候変動と防災について」
[講師] 横浜地方気象台 防災管理官 山城 幸浩 氏



平成30年度

[演題] 「横浜市の危機管理と災害対策について」
[講師] 横浜市危機管理監 荒井 守 氏



令和元年度

[演題] 災害・減災取材の現場から
～「わがこと」と捉えるために
[講師] 講師: 神奈川新聞報道部 渡辺 渉 氏



防災講演会

平成26年度

〔演題〕 「地震に備える防火防災管理のあり方」
～東日本大震災の事例を踏まえて～
〔講師〕 総務省消防庁 消防大学校 消防研究センター
研究統括官 工学博士 山田 常圭 氏



平成27年度

〔演題〕 「阪神・淡路大震災から20年、
住宅の耐震化について考える」
〔講師〕 東京工業大学 大学院総合理工学研究科
教授 翠川 三郎 氏



平成28年度

【第一部】
〔演題〕 「体育訓練担当課長 今昔物語」
〔講師〕 横浜市消防訓練センター初代体育教官 本田 大三郎 氏
【第二部】
〔演題〕 「優秀な人材が働きなくなる組織のつくり方」
〔講師〕 株式会社 平成建設 代表取締役社長 秋本 久雄 氏



平成29年度

〔演題〕 熊本 連鎖地震からの警告と災害弱者
－歴史地震と大規模災害のリスクに関する考察－
〔講師〕 神奈川大学 経済学部 教授 佐藤 孝治 氏



平成30年度

〔演題〕 次の震災について本当のことを話してみよう。
〔講師〕 名古屋大学 教授 工学博士 福和 伸夫 氏



令和元年度

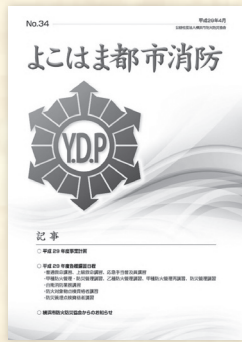
〔演題〕 横浜消防の近代史 ー開港から消防署の誕生までー
① 横浜消防の歴史はどこまでわかって、どこまでわかっていないのか？
② 近代横浜の大規模火災(慶応の大火・雲井町大火・埋地大火)
③ 横浜消防の特徴(居留地消防隊の存在)
④ 消防署誕生の背景と意義
〔講師〕 講師：横浜開港資料館 調査員 吉田 律人 氏



広報誌

カラー化
第1号

平成29年度



4月号



7月号



10月号



1月号

平成30年度



4月号



7月号



10月号



1月号

令和元年度



4月号



7月号



10月号



1月号

令和2年度



4月号



7月号



10月号



1月号

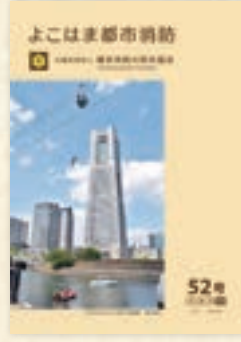
令和3年度



4月号



7月号



10月号



1月号

ポスター

平成24年度



秋



春

平成25年度



秋



春

平成26年度



秋



春

平成27年度



秋

平成28年度



秋



春

平成29年度



秋



春

平成30年度



秋



春

令和元年度



秋



春

令和2年度



秋



春

令和3年度



秋



春

令和4年度 防災功労者表彰



神奈川 旭 金沢 港北 青葉 瀬谷
西 緑 鈴木会長 港南 栄

歴代防災功労者表彰受賞者一覧 (順不同・敬称略)

区 別	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
鶴 見	昭和産業株式会社鶴見パッケージセンター	株式会社築港 横浜化学品センター	キリンビール株式会社 横浜工場	大東タンクターミナル株式会社 横浜油槽所
神奈川	太陽油脂株式会社	日清オイリオグループ株式会社 横浜神奈川事業所 所長 松本 曉虎	日本製粉株式会社 横浜工場	株式会社 京浜化成成品センター 代表取締役社長 佐藤 一郎
西	横浜市防災消防事業協同組合	日産自動車株式会社 グローバル本社	株式会社相鉄ビルマネジメント 代表取締役社長 千原 広司	株式会社 横浜ロイヤルパークホテル
中	高田工業株式会社 本牧工場	川本工業株式会社	日成建設株式会社	株式会社ホテル、ニューグランド 代表取締役社長 濱田 賢治
南	横浜弘明寺商店街協同組合	有限会社太田屋 富田 忠雄	有限会社新美商会 新美 政平	石川 光男
港 南	京急上大岡自動車学校	株式会社京急百貨店	株式会社大津スイング企画 代表取締役 大津 政美	おふろの玉様 港南台店
保土ヶ谷	株式会社トックス 代表取締役 殿内 荘太郎	モンテファーレ	株式会社 金原 代表取締役 金原 正和	関東陸送株式会社 代表取締役 河原 和弘
旭	日産自動車(株) 日産教育センター 所長 森 健三	株式会社アサヒマーク 会長 漆原 辰男	株式会社 横浜ドライ 代表取締役 佐々木 守雄	株式会社 芙蓉ビデオエージェンシー 代表取締役会長 西澤 清
磯子	株式会社東芝 横浜事業所 所長 小林 薫平	東京ガス株式会社根岸工場	株式会社II横浜事業所 所長 鈴木 健	社会福祉法人 峰延会 特別養護老人ホーム「峰の郷」 理事長 又江 和子
金 沢	JNC 株式会社 横浜研究所 事務グループリーダー 荒川 健司	株式会社 日本製鋼所 横浜製作所 総務部長 恒松 直樹	協同組合横浜マーチャングレインセンター 理事長 鈴木 信晴	日本シャフト株式会社 代表取締役社長 坂井 直人
港 北	株式会社サカモト 坂本祭典 新横浜斎場	社会福祉法人 仁成会 尚花愛児園	株式会社横浜アリーナ	株式会社 エト工業
緑	丸台商事株式会社 代表取締役社長 岸 蔚	株式会社ジェス 代表取締役会長 宇都木 伊信	株式会社横浜LIXIL製作所	株式会社よろづ製作用所
青 葉	株式会社東急百貨店たまプラーザ店	アイビー商事株式会社 代表取締役社長 石原 博	株式会社青葉防災 代表取締役 水戸 幸宏	工藤建設株式会社 相談役 工藤 五三
都 筑	株式会社清水商工 代表取締役 清水 廣司	東塗装株式会社 取締役相談役 岸 勝治	城田地所株式会社 代表取締役 城田 栄一	山崎製パン株式会社 横浜第二工場
戸 塚	株式会社日立製作所情報・通信システム社 通信ネットワーク事業部	山崎製パン株式会社 横浜第一工場	大洋建設株式会社	医療法人 横浜柏堤会 戸塚共立第1病院
栄	飯島 繁	モンテカティニーニ 代表 金子 勝	関 昌憲	株式会社 ワイ・エス企画 代表取締役 内田 康正
泉	横浜油材株式会社 代表取締役会長 伊藤 春雄	有限会社 大貫商事 取締役会長 大貫 芳夫	株式会社 啓愛社 人事総務部 課長 久良知 秀郎	神奈川中央交通株式会社 戸塚営業所 所長 鳥海 敏克
瀬 谷	株式会社依田儀一商店 代表取締役 依田 紀久子	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター 代表取締役所長 吉田 浩次	株式会社柳沼建設 代表取締役 柳沼 芳光	有限会社石川電気 代表取締役 石川 重夫

区 別	平成29年度	平成 30 年度	令和元年	令和 2 年
鶴 見	株式会社オカムラ物流 横浜物流センター	鶴見倉庫株式会社	東芝エネルギーシステムズ株式会社 京浜事業所	AGC 株式会社 AGC 横浜テクニカルセンター
神奈川	株式会社渡商会 取締役会長 河西 哲男	昭和電工株式会社 横浜事業所	三菱鉛筆株式会社 横浜事業所	AGC 株式会社 中央研究所
西	株式会社 横浜グランドインターコンチネンタルホテル	三菱地所プロパティマネジメント株式会社 横浜支店	横浜新都市センター株式会社	株式会社 崎陽軒
中	牛山事務所 代表 牛山 裕子	株式会社共栄社 代表取締役社長 山口 宏	株式会社大憲興業 代表取締役 高野 智恵子	株式会社 横浜スタジアム
南	千歳自動車工業株式会社	東亜道路工業株式会社 横浜工場	日本濾水機工業株式会社	株式会社ケイディエス 神奈川ドライブングスクール
港 南	社会福祉法人恩賜財団済生会 横浜市南部病院 院長 今田 敏夫	株式会社高島屋港南台店	ホンダカーズ神奈川中株式会社 代表取締役会長 大平 力蔵	株式会社相鉄ビルマネジメント 横浜エリア事業部港南台営業所
保土ヶ谷	保土ヶ谷青果株式会社	中嶋 光	横浜トヨペット整備株式会社	ヤベライフパートナー株式会社
旭	株式会社横浜レンタル 代表取締役 古野 奨	ヨコハマ防水株式会社 代表取締役 森本 潔	社会福祉法人藤嶺会特別養護老人ホーム 弥生苑 理事長 西山 宏二郎	有限会社ベルセブン 代表取締役 鈴木 昭彦
磯子	プララ都市開発株式会社 代表取締役社長 黒川 順吉	社会福祉法人磯子コスモス福祉会 特別養護老人ホーム中原苑 理事長 鈴木 秀雄	旭紙業株式会社 横浜工場	株式会社日立インフォメーションエンジニアリング システムプラザ横浜
金 沢	三上船舶工業株式会社 代表取締役社長 河西 良二	明和食品株式会社 代表取締役会長 山田 淳二	鈴江コーポレーション株式会社 新杉田埠頭倉庫営業所	横浜ケミカル倉庫有限会社
港 北	ローム株式会社 横浜テクノロジーセンター	新横浜プリンスホテル	株式会社メモワール Socia 2 1 代表取締役社長 渡邊 正典	小松精機株式会社
緑	中山博善株式会社 代表取締役 菊地 満理子	有限会社ミドリ事務機	三和倉庫株式会社 横浜事業所	ヤマト建設株式会社 代表取締役 小川清一
青 葉	有限会社太陽住宅設備 代表取締役 白井 久美	土志田石油株式会社 代表取締役 土志田 啓次	イツ・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役社長 嶋田 創	日本体育大学 横浜・健志台キャンパス
都 筑	株式会社ヤナセ横浜ニューデポー	日東樹脂工業株式会社 横浜工場	株式会社亀屋万年堂 横浜事業所	株式会社 DNP テクノバック横浜工場
戸 塚	東ソー株式会社 ウレタン研究所	ユニ株式会社 アピタ戸塚店	イオンリテールストア株式会社 イオンスタイル東戸塚	医療法人横浜未来ヘルスケアシステム 戸塚共立第2病院
栄	有限会社アスカ 代表取締役 立石 順子	立正佼成会 大船教会	学校法人須藤学園 いいじまびがしこども園	大洋石油ガス株式会社
泉	株式会社オーモリ 代表取締役社長 小野 敦男	株式会社麻生設備工業所 会長 麻生 清	有限会社 佐竹商店	川崎自動車工業株式会社
瀬 谷	株式会社アイシマ	特定非営利活動法人 ふるさとホーム瀬谷 理事長 久保田 雅徳	三鈴興業株式会社 代表取締役 小林 浩	社会福祉法人恵正福祉会 介護老人保健施設 恵の社

区 別	令和 3 年	令和 4 年
鶴 見	JFE エンジニアリング株式会社	有限会社澤の湯 代表取締役 山本 龍行
神奈川	太陽油脂株式会社	株式会社渡辺プロテック 代表取締役 長竹 信子
西	横浜消火栓標識株式会社	株式会社横浜スカイビル
中	株式会社日新	医療法人博生会 本牧病院
南	横浜橋通商店街協同組合 理事長 高橋 一成	株式会社イトーヨーカ堂 横浜別所店
港 南	株式会社大八 代表取締役社長 山本 武史	株式会社キクシマ 代表取締役社長 菊嶋 秀生
保土ヶ谷	石井 忠 様	古河電池株式会社 代表取締役社長 小野 眞一
旭	平山防災設備株式会社 代表取締役 平山 行伸	聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院
磯子	シティー開発株式会社 代表取締役社長 川原 武人	学校法人 横浜学園 理事長 田沼 光明
金 沢	トヨタメトロジック 株式会社	株式会社ワン・ツー・ストック
港 北	株式会社宮川製作所 代表取締役 宮川 恒太郎	新横浜グレイスホテル
緑	有限会社ミヨシ企画	医療法人社団 鴨居病院 理事長 荒井 ゆかり
青 葉	株式会社東急モルズデベロップメント 青葉台東急スクエア 総支配人 高橋 駒貴	イチコーエンジニアリング株式会社
都 筑	株式会社 清水商工 様	山崎製パン株式会社 横浜第二工場
戸 塚	株式会社甲斐 代表取締役会長 奥秋 和彦	株式会社鈴花園 代表取締役 鈴木 一弘
栄	有限会社坂間建材センター	平井工業株式会社
泉	株式会社オーモリ 代表取締役社長 小野 敦男	有限会社小川エステート 様
瀬 谷	社会福祉法人 朋友会 軽費老人ホーム 睦荘	学校法人 横浜中央学園 ゆたか幼稚園 園長 鎌田 豊也



消防車は語る

全10回+αの乗り物が集合

消防車とイラスト

イラストレーター
さとう さかえ
佐藤 栄一



私が消防車のイラストを手掛ける動機は消防車が好きだから。と答えますが、きっかけは『横浜のアーレンフォックスを探してください。』のメッセージを発信したことから始まります。写真が無く絵図も無い伝説的な消防車ですが、東京消防庁と函館市消防本部に現物が保存されているのを知りました。製造会社のリストには横浜市に納入されたことが記されていました。結局写真は見つからず、それは関東大震災で焼失したことがわかり、伝え聞きで再現しました。その後、資料が少ない車の再現、白黒資料の色彩による再現をして描き溜めました。

細密画描法は消防に勤務する前の組織で職務上必要な技術として習得しました。得意分野は、乗り物、建築物、植物などです。イラストレーターはクライアントから依頼があれば何でも描くというのが特徴です。

これからは、他市消防本部から草創期の消防車を描く依頼があるので描き続けてまいりたいと考えています。

第45号掲載



高性能高級消防車 アーレンフォックス
【米国製】1921年（神奈川県横浜市）

第47号掲載



わが国初の消防自動車
メリーウェザー号 横浜市

第46号掲載



神奈川県警察部機動消防隊 日産81型
1945年（神奈川県横浜市）

第46号掲載



シボレー救急車 1950年ころ 横浜市

第48号掲載



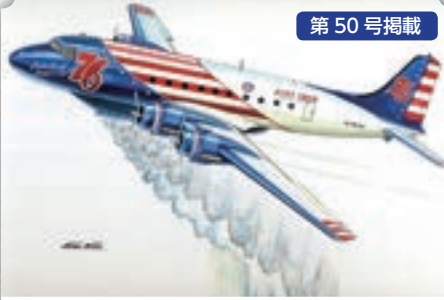
マーセデス専任救助隊車- 4153_LI

第 49 号掲載



インターナショナル半化学消防車
USNAVY 根岸消防隊

第 50 号掲載



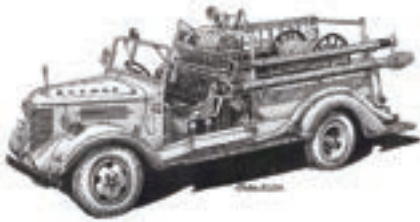
航空消防DC-6

第 52 号掲載



GMC 水槽消防車

第 53 号掲載



普通消防車 ニッサン180型
1946 年ころから 1960 年ころまで

第 54 号掲載



GMC 水槽車—2

第 55 号掲載



海軍省横須賀基地 消防車 桜に錨



1933_Inked はしご車 1933 年ころ
日本陸軍省 _LI



1933_わが国初の救急車 1933 年
(神奈川県横浜市)



1935_専任救助隊車 1935 年ころ 横浜市



ダットサン小型消防車 1943 年ころ



ダッジ救急車 1950 年ころ 横浜市



特別高圧水槽付消防車 1950 年ころ
横浜市



ジープ小型消防車
1950 年ころ _LI.psd



トヨベツト小型消防車
1955 年ころ 横浜市



わたしの ベストショット!! ～総集編～

撮影：近藤 美樹さん



緊急離発着場に着陸（訓練）した消防ヘリ。
公園の緑の中は大変珍しいショットです。



新しくなった防火着装の消防団員、
指揮者が訓練を引き締めます。



今年の泉区の消防出初式、フィナーレ
を飾る一斉放水、虹がかかりました。



化学防護服を着ての作業は目に見えないモノとの戦い。そんな日が来ない事を祈るばかり。



救助隊のキビキビした動きには
いつも感動します



太陽の光が水にあたりキラキラと輝く空間の中、
それを見ている隊員の後ろ姿が印象的でした。



見ているこちらの気持ちが引き締まるような
ピシッとした敬礼が素敵でした。



要救助者が救助される瞬間、
とても緊張感がありました。



指揮本部は災害対応のカナメです。



空中での訓練は緊張感が伝わります。



なくてはならない存在、
横浜消防と YMAT(横浜救急医療チーム)



遠くにマリンタワーが見え、
横浜らしい放水場面に感激。



横浜消防のレンジャー服、
背中に自信と信頼が・・・



今年は中止となったポンプ操法大会
機敏な動きをまた見たい。



水陸両用車「スカイダック」と消防艇「ゆめはま」



放水が標的に当たると思わず拍手がでます。



九都県市合同防災訓練から

公益社団法人横浜市防火防災協会設立時から現在までの執行理事

区名	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
会長				石井理事						鈴木理事
副会長			河西理事				鈴木理事			吉山理事
副会長				大平理事				緑川理事		
副会長	大貫理事		工藤理事							野路理事
専務理事	工藤理事			鈴木理事			吉山理事	野路理事		坂野理事
常任理事			安藤理事			武下理事		坂野理事		有賀理事

公益社団法人横浜市防火防災協会設立時から現在までの理事

区名	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
鶴見				筒井理事					山本理事	
神奈川			河西理事					長谷川理事		
西					緑川理事					
中		小菘理事					渡邊理事			
南	住吉理事				早川理事					島田理事
港南			大平理事				橋浦理事			大津理事
保土ヶ谷					石井理事				森山理事	
旭			佐藤理事					坂本理事		
磯子				黒川理事					浜田理事	
金沢		児玉和彦理事					児玉聖司理事			
港北					吉山理事					
緑					鈴木理事					
青葉			工藤理事					野路理事		
都筑					三科理事					
戸塚				奥秋理事					横川理事	
栄					角田理事					
泉	大貫理事			麻生理事				清水理事		
瀬谷					川口理事					
事務局			安藤理事			武下理事		坂野理事		有賀理事

ホームページがリニューアルします。(年内に更新予定)

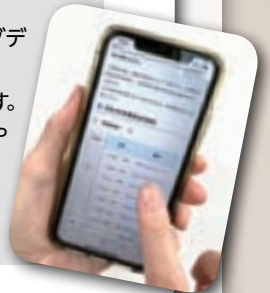


リニューアルのポイント

- ・内容を整理して見やすくしました。
- ・講習申し込みなど、必要な検索をしやすくなります。

スマートホンのホームページについて

- ・スマホで見る際に最適なサイズにレイアウトされるレスポンシブウェブデザインを採用しました。
- ・指で動かす「スワイプ」操作に対応したことで閲覧操作が容易になります。
- ・今まではスマホで見るには小さすぎて敬遠されていたコンテンツも見やすくなります。
- ・パソコンとスマホのコンテンツが一体化することで URL が一つとなり、内容とデザインが統一されます。



事務所訪問

ウェルカム!!
防火防災協会へ



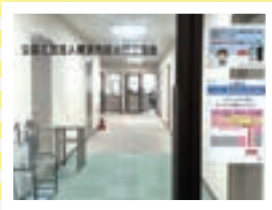
坂野専務理事



事務所ビルが見えました



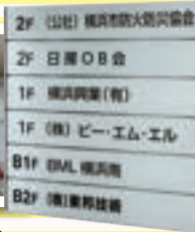
ビル正面から



2階の入口です



EV か階段で2階へ



事務所
です



事務所の表示



展示物



事務所

編集後記

「設立 10 周年記念特別号編集後記」

協会のこの 10 年を振り返り痛切に感じたのは、公益社団法人移行時の基盤づくりの苦難の数々と携わった方々の防火防災に対する強い思い、そして積み重ねてきた事業に対する多くの方々の支援。10 周年の記念誌としての本特別号は、記録誌としての役割をはじめ、これまでなかなか表に出なかった協会運営のご苦労

や協会を支えてきた方々にもスポットを当て、感謝の気持ちを込めつつ編集した。今回の座談会にもあったように、その根底や向き合う先にあるのは「人」。「よこはまの安全・安心」のため、これからも人の繋がりを大切に、協会のさらなる発展を祈念しつつ、いざ、次の 10 年へ！！

集 合 写 真



職員（正職員・嘱託）



非常勤講師含む

公益社団法人横浜市防火防災協会 歴代職員名簿

補 職	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
専務理事										坂野 満	坂野 満
常任理事								坂野 満	坂野 満		
常任理事兼事務局長	安藤 行雄	安藤 行雄	安藤 行雄	安藤 行雄	安藤 行雄	武下 哲郎	坂野 満			有賀 太重	洲上 正基
事務局長								有賀 太重	有賀 太重		
事務局次長										洲上 正基	
事務局次長兼総務課長			藤井 啓敦	藤井 啓敦	藤井 啓敦	有賀 太重	有賀 太重				
事務局次長兼講習課長		都丸俊比古	吉田 護	吉田 護	吉田 護	吉田 護	吉田 護	滝沢 宏	滝沢 宏	滝沢 宏	葦山 広志
事務局次長兼防災支援課長											滝沢 宏
事務局次長兼 防災コンサルティングGM	市村 喜正										
事務局次長兼 防災コンサルティング課長			加藤 淳治	加藤 淳治	加藤 淳治	加藤 淳治	加藤 淳治				
事務局次長兼講習担当課長								吉田 茂男	吉田 茂男 日比谷幹雄	吉田 茂男	
講習・研究 GM 販売・管理 GM 総務課長	都丸俊比古	藤井 啓敦									
	藤井 啓敦										
講習・防災コンサルティング (令和4年度から防災支援) 総務(平成24年度:販売・ 管理/経理)の各課職員	川島 敏夫	若木 茂男	神保 和廣	神保 和廣	神保 和廣	信田 孝治	渡邊 雄二	渡邊 雄二	鉄本 勇	鉄本 勇	鉄本 勇
	滝尻 善輝	神保 和廣	信田 孝治	信田 孝治	信田 孝治	渡邊 雄二	鉄本 勇	鉄本 勇	河原 伸吾	河原 伸吾	河原 伸吾
	中川 哲男	信田 孝治	金子 裕俊	渡邊 雄二	渡邊 雄二	大塚 勝美	大塚 勝美	河原 伸吾	鈴木 忠明	鈴木 忠明	鈴木 忠明
	若木 茂男	川島 敏夫	天野 義照	大塚 勝美	大塚 勝美	金子 裕俊	天野 義照	大塚 勝美	前田 久幸	兼田 元樹	前田 久幸
	奈良 利造	甲斐 康生	田子 弘子	金子 裕俊	金子 裕俊	天野 義照	前田 久幸	前田 久幸	田村 幸一	田村 幸一	兼田 元樹
	尾形富士夫	金子 裕俊	白井 一彦	天野 義照	天野 義照	白井 一彦	田村 幸一	田村 幸一	田子 弘子	山崎 雅代	田村 幸一
	瀧澤 勝利	田子 弘子	足立 哲信	田子 弘子	白井 一彦	田子 弘子	田子 弘子	田子 弘子	山崎 雅代		山崎 雅代
	依田 資郎	白井 一彦	滝尻 善輝	白井 一彦	田子 弘子	足立 哲信	山崎 雅代	山崎 雅代			日比谷幹雄
	阪間 吉和	奈良 利造	安田 秀明	足立 哲信	足立 哲信				渡邊 雄二	渡邊 雄二	有賀 太重
	甲斐 康生	阪間 吉和		安田 秀明	安田 秀明	菊地 実	菊地 実	菊地 実	大塚 勝美	大塚 勝美	吉田 茂男
		小山富士夫	滝尻 善輝			成田 克美	成田 克美	成田 克美	菊地 実	菊地 実	日比谷幹雄
		草間 智美	安田 秀明		菊地 実	菊地 実	中野 恭基	堀越 澄夫	堀越 澄夫	成田 克美	成田 克美
	松葉 富子			成田 克美	成田 克美	小山 弘	安田 秀明	天野 義照	堀越 澄夫	堀越 澄夫	堀越 澄夫
	田子 弘子	中野 恭基	中野 恭基	中野 恭基	中野 恭基	長谷部正明	上田 賢二	安田 秀明	天野 義照	天野 義照	天野 義照
	長谷川恭央	小山 弘	小山 弘	小山 弘	小山 弘	安田 秀明	星野 秀清	上田 賢二	安田 秀明	田子 弘子	田子 弘子
			長谷部正明	長谷部正明	長谷部正明		名波 成美	星野 秀清	上田 賢二	金子 與彦	金子 與彦
							名波 成美	星野 秀清	安田 秀明	上田 賢二	
講習課 防災支援課 総務課 臨時職員		市村 喜正	市村 喜正	滝尻 善輝	滝尻 善輝	橋本 利雄	滝尻 善輝		名波 成美	上田 賢二	星野 秀清
		依田 資郎	依田 資郎	依田 資郎	依田 資郎	古都 隆	橋本 利雄	滝尻 善輝		星野 秀清	山田 圭介
		大學 利夫	大學 利夫	大庭 栄司	大庭 栄司	神保 和廣	古都 隆	橋本 利雄	滝尻 善輝	山田 圭介	名波 成美
		宮田 勝廣	若木 茂男	若木 茂男	若木 茂男	滝尻 善輝	信田 孝治	古都 隆	橋本 利雄	名波 成美	寺尾 孝行
		平井 公明	鈴木 三郎	鈴木 三郎	鈴木 三郎	内田 博己	神保 和廣	信田 孝治	古都 隆		金子 照美
		山村 勲	川島 敏夫	川島 敏夫	川島 敏夫	大庭 栄司	足立 哲信	鈴木 哲司	信田 孝治	滝尻 善輝	古都 隆
		濱岡 和友	甲斐 康生	甲斐 康生	甲斐 康生	甲斐 康生	金子 裕俊	神保 和廣	鈴木 哲司	橋本 利雄	
			奈良 利造	奈良 利造	奈良 利造	鈴木 三郎	白井 一彦	内田 博己	金子 與彦	古都 隆	滝尻 善輝
			阪間 吉和	阪間 吉和	阪間 吉和	奈良 利造	内田 博己	若木 茂男	若林 和則	信田 孝治	橋本 利雄
			濱岡 和友	濱岡 和友	濱岡 和友	若木 茂男	大庭 栄司	金子 照美	神保 和廣	若林 和則	信田 孝治
				市村 喜正	市村 喜正	金子 照美	甲斐 康生	金子 與彦	内田 博己	神保 和廣	若林 和則
				中澤 暁雄	中澤 暁雄	依田 資郎	鈴木 三郎	若林 和則	若木 茂男	金子 照美	神保 和廣
非常勤講師							濱岡 和友	若木 茂男	濱岡 和友	金子 照美	宇野登志子
							市村 喜正	金子 照美	吉村 眞一	宇野登志子	吉見 佑二
							中澤 暁雄	濱岡 和友	中澤 暁雄	吉村 眞一	吉村 眞一
								吉村 眞一		岡田 康裕	岡田 康裕
								中澤 暁雄			土橋 正彦
											安室 秀一
											板谷 晋哉
											鈴木 哲司



火通要慎

◆地下埋設タンク・配管の 気密漏洩検査

(一般財団法人 全国危険物安全協会 第14012号)

◆産業廃棄物の処理・再生 各種タンク・ピットの清掃工事

(弊社でリサイクル可能な廃油は買取り致します)

《ISO14001認証取得》

三美興産株式会社

〒223-0059 横浜市港北区北新横浜一丁目9番地2

TEL 045(549)3551 FAX 045(548)2102

URL:<http://www.sanbikosan.com/>



創業 50 年

消火器・消防ポンプ他
各種防災機器の販売
火災報知機他・各種防
災設備の設計施工・点検

株式会社 蒲原商会

横浜市港北区榎町3-1-13
TEL (045) 542-7266 代
FAX (045) 542-7252

消防・防災
機器販売

消防設備
工事・点検

防災用品
販売

※消火器の処分は所定の
手続きが必要です。
買い替え・処分は弊社に
お任せ下さい。

(創業71周年) 消火器リサイクル推進センター 特定窓口

双信消防設備株式会社

横浜市西区中央1-37-24 ☎ 045-321-1884

消防用設備一式 設計・施工・販売・修理・点検

消火器	漏電警報器
自動火災報知設備	屋内消火栓設備
避難器具	スプリンクラー設備
非常警報設備	誘導灯

株式会社

東横防災商事

〒226-0016
横浜市緑区霧が丘4丁目2-3-206

☎ (045) 921-1244

FAX (045) 923-0677

横浜油材株式会社

- 石油部：重油・軽油・灯油・潤滑油
- 洗剤部：クリーニング工場向け洗剤、資材全般
・工業薬品、有機溶剤
(業務用水洗機・ドライ機・コインランドリー設備施工全般)
- 工事部：危険物工事設計施工及び解体工事一式
- リサイクル部：中古タンクローリー、中古給油機、
中古コンプレッサー等

〒245-0018
横浜市泉区上飯田町1465-2
TEL 045-803-3508
FAX 045-803-3594
URL：<https://y-yuzai.com/company/>



広告

神奈川県民のための

火災共済

組合員のみなさまが火災等に遭ったとき、互いに助け合う制度です

例えば、700万円の保障での年間掛金

マンション等
(耐火構造)
専用住宅の場合

2,800円

木造・準耐火等
(非耐火構造)
専用住宅の場合

5,600円

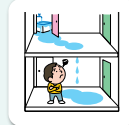
*新規にご加入の際、組合員になっていただくため、100円の出資金が必要です。

広告内容は概要のため、詳細は下記までお問い合わせください。

たいせつな建物と家財…



火災



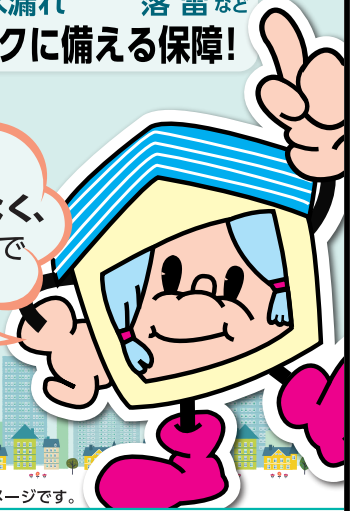
水漏れ



落雷など

もしものリスクに備える保障!

築年数に関係なく、
同じ加入基準額で
加入できます!



*イラストはイメージです。

横浜市孤立予防対策協力事業者

横浜市民共済生活協同組合



0120-073-203

横浜市民共済

検索

横浜市中区日本大通58 日本大通ビル 8階



防火管理者必携!

「消防関係法令集」販売中!

本書の
特徴

- 監修／横浜市消防局予防部予防課
- 防火・防災管理の業務を行う上で必要となる消防関係の法令を網羅した実務書です。
- 横浜市火災予防条例も編さんされており、法令、条例、両面の規制が把握できます。

2,750円(税込)
(当協会会員 2,500円)

新たに
追加した
主な内容

消防法施行規則等

- ・消防法令に定める様式の押印削除等

横浜市火災予防条例

- ・第35条の5 住宅用火災警報器の設置免除に係る所要の整備
- ・第45条 飲食店等の消火器設置基準の改正



- サイズ/A5
- 重さ/約1,200g
- 発行日/令和3年4月6日

購入方法

- ①当協会窓口で購入
- ②宅配を希望 (送料等の御負担をお願いします。)

問い合わせ先

公益社団法人 横浜市防火防災協会

電話 045-714-0920 (総務課)

「横浜市防火防災協会」のホームページにご案内と注文用紙がありますのでご利用ください

横浜市民共済 検索

シリーズ防火

A5判
2色刷

詳細は
こちら!



1 事業所編 32頁

定価154円
(本体140円+税10%)



従業員など、一人ひとりが「自分の職場から絶対に火事を出さない」という姿勢で日頃から取り組むことを啓発する一冊。

2 消防計画編 16頁

定価105円
(本体96円+税10%)



防火管理等の基本となる「消防計画」の重要性とそれに基づく関係者の役割と活動について解説。

3 訓練編 16頁

定価105円
(本体96円+税10%)



「自分のところは自分で守る」ため、そして「いざというときのため」に消防訓練は不可欠。効果的な訓練のためのポイントを簡潔に解説。

普段の食材で、災害などの非常時を乗り越える!

備えいらずの

防災レシピ

飯田 和子
Kazuko Iida

栄養士、調理師、国際薬膳師
（社）日本災害食学会災害食専門員
（株）WA・ON代表取締役

「食」で実践フェーズフリー

カラダほっこり!
具たくさんシチュー

コレ、ポリ袋となべと
カセットコンロで
できるんです!

「いつも」の食事に!
「もしも」の食事に!

オールカラー/A5判/88頁
定価1,320円(本体1,200円+税10%)

購入者限定
レシピ動画付き!
YouTubeと連動!

詳細は
こちら!



東京法令出版株式会社

申込みは
こちらから

インターネットでお申込み
☞ <https://www.tokyo-horei.co.jp/>
(※最新情報等もホームページをご覧ください。)

お電話でお申込み
0120-338-272
(※携帯電話からもお申込みできます。)

FAXでお申込み
0120-338-923

公益社団法人 横浜市防火防災協会

〒232-0064 横浜南区別所一丁目15番1号 BML横浜ビル2階

URL <https://ydp.or.jp>

FAX 045 (714) 0921



☐ 総務課 TEL 045 (714) 0920
☐ 防災支援課 TEL 045 (714) 0929

☐ 講習課 TEL 045 (714) 9909
☐ 救命講習受付 TEL 045 (714) 9911